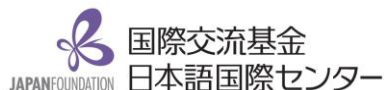


文字の教え方

Unit 2 実践 Part 1 かなの教え方(1)



1. はじめに

このパートでは、日本語のかな（ひらがな・カタカナ）の教え方について学びます。みなさんは、かなをどのように教えていますか。かなを教えるときに難しいこと、困っていることはありますか。

このパートでは、かな全体と、読みの教え方を取り上げます。かなの書きの教え方は次のパートで扱います。

このパートのキーワード

読み・書き 字形・音 五十音表 文字カード 連想法

2. かな（ひらがな・カタカナ）を教える

これまでのかなの教え方をふりかえりましょう。

まず、かなは「いつ」教えるのがよいでしょうか。

【タスク 1】みなさんは、次のどの教え方をしていますか。それぞれの長所^{ちやうしょ}と短所^{たんしょ}を考えてみましょう。

教え方	長所	短所
①最初にかなを全部教えてから、日本語（会話や文型 ^{ぶんけい} ）を教える。		
②最初はかなを教えないで、ローマ字だけを使って日本語を教える。		
③ローマ字を使って日本語を教えながら、かなも平行 ^{へいこう} して少しずつ教える。		

次に、ひらがなとカタカナについて考えましょう。皆さんは、ひらがなとカタカナの「どっち」を先に教えていますか。

【タスク 2】ひらがなとカタカナの特徴を考えてみましょう。

	ひらがな	カタカナ
形		
使い方		
その他		

まず、形ですが、ひらがなは全体に丸く、カタカナは全体に角張^{かくば}っていますね。それで、外国人にとっては、ひらがなは書きにくく、カタカナの方が書きやすいという人が多いようです。

使い方は、カタカナは外国の人名・地名や外来語など使い方が限^{かぎ}られていますが、ひらがなはカタカナで書くことば以外はすべて書くことができます。それで、ひらがなを早く覚えれば便利ですが、カタカナは自分の名前や、国が書けるし、知っていることばが多いという利点^{りてん}もあります。

その他に、ひらがなはよく使うので覚えやすく、カタカナはあまり使わないので忘れやすいという事情もあります。また、多くの教育現場^{げんば}ではひらがなを先に教えていると思いますが、その場合、先に習うひらがなは一生懸命^{いっしょうけんめい}覚えても、後から習うカタカナは覚えるのが嫌^{いや}になってしまう、ということもあります。

このような特徴を考えると、海外ではカタカナを先に教えてもよいかもしれません。自分の教育現場の事情に合わせて、どちらを先に教えるか考えましょう。

最後に、かなを「どのように」教えているかを考えましょう。かなを一字ずつ、文字だけを教えているか、または、なるべく日本語の言葉にして教えるかは、どうでしょうか。この点については、このパートの最後にふれますので、そちらを見てください。

このように、かなにはいろいろな教え方がありますが、どれが一番よいというものはありません。

ん。教えている学習者や、教育現場の事情に合わせて、一番よい方法を選びましょう。

それでは、これからかなの教え方を具体的に考えていきます。

かなの学習目標^{もくひょう}は、生活の中で、かなを自由に読んだり、書いたりすることができるようになることです。かなの学習には字形^{しけい}を見て、音がわかる「読み」と、音を聞いて、文字が書ける「書き」があります。

<参考> かなの段階^{だんかいてき}的な教え方

ここで、かなの段階的な学習について紹介します。

学習者にかなを教えるときには、早く全部覚えてほしいと思うかもしれませんが、学習者の中には最初にかの学習でつまずいて、日本語の学習自体をやめてしまう人もいます。

かなを覚えるスピードは学習者のニーズや能力、学習環境^{かんきょう}によっても違います。

そこで、国際交流基金が開発した日本語教材『まるごと 日本のことばと文化』では、最初にかのすべて覚えることは求めています。途中^{とちゅう}までローマ字を使いながら「読み」は A2 の前半、「書き」は A2 終了までに 100%できるようになればよいとしています。

まず自分の名前や、国、町などの名前、次に友達の名前や自分に関係があることばや必要な表現、そして、教科書に出てきた新しいことばや表現、文が段階的に読めるようになり、また書けるようになることをめざします。そして、文字を忘れたり、わからなかったときには、いつ

でも五十音表を見直して、自分のペースで少しずつ覚えればよいと考えています。このように、日本語を学習しながら段階的にかなを覚えていく方法もぜひ参考にしてください。

3. 「読み」の教え方

かなの「読み」を教えるときは、(1)かなの全体(システム)を理解することと、(2)かなをひとつずつ確実に覚えることが必要です。全体を理解する方法として、①五十音表と②歌があります。かなを確実に覚える方法として、③文字カードと④連想法があります。みなさんは、これらの方法を使っていますか。

【タスク 3】かなの「読み」を教えるときに使うものとして、①五十音図、②歌、③文字カード、④連想法があります。それぞれの方法の目的や特徴を考えてみましょう。

①五十音表

日本語のかなにはどんな文字があるのか、どのように発音するのか、かな全体のシステムを理解するために五十音表を使います。

五十音表は、日本語の母音ぼ いん し いんと子音を組み合わせて、文字の音を示した表です。図1は、「カタカナ」の五十音表の例ですが、清音せいおん、撥音はつおん、濁音だくおん、半濁音はんだくおん、拗音ようおんがのっています。この表を見ながら、音を聞いたり、発音したりして、日本語のかな全体のシステムを理解し、文字の形と

音を一致させます。

図1 カタカナの五十音表

	a	i	u	e	o		a	i	u	e	o	
	ア	イ	ウ	エ	オ							
k	カ	キ	ク	ケ	コ		g	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
s	サ	シ shi	ス	セ	ソ		z	ザ	ジ ji	ズ zu	ゼ	ゾ
t	タ	チ chi	ツ tsu	テ	ト		d	ダ	ヂ ji	ヅ zu	デ	ド
n	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ							
h	ハ	ヒ	フ fu	ヘ	ホ		b	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
m	マ	ミ	ム	メ	モ		p	パ	ピ	プ	ペ	ポ
y	ヤ		ユ		ヨ							
r	ラ	リ	ル	レ	ロ							
w	ワ				ヲ o	ン n						

母音

子音

だくおん 濁音

はんだくおん 半濁音

せいおん 清音

はつおん 撥音

	ya	yu	yo		ya	yu	yo	
k	キャ	キュ	キョ		r	リャ	リュ	リョ
	シャ sha	シュ shu	ショ sho		g	ギャ	ギュ	ギョ
	チャ cha	チュ chu	チョ cho			ジャ ja	ジュ ju	ジョ jo
n	ニャ	ニュ	ニョ		b	ビャ	ビュ	ビョ
h	ヒャ	ヒュ	ヒョ		p	ピャ	ピュ	ピョ
m	ミャ	ミュ	ミョ					

ようおん 拗音

『まるごと 日本のことばと文化 入門(A1) りかい』より

最初は 50 音の順番に練習して、それができるようになったら、バラバラに音を聞かせて文字を探させたり、文字を指して答えさせたりします。ただし、五十音表は文字の位置から音が思い出せるので、その文字を確実に覚えているとは言えません。

②歌

五十音表のかなの音を順番に覚える方法として、歌を使うこともできます。

図 2 は「キラキラ星」という歌の替え歌ですが、「あいうえおはよう、かきくけこんにちは」と五十音表の音の順番を日本語のあいさつ表現と一緒に歌いながら覚えることができます。

歌を覚えることで日本語のかなの音を五十音順に覚えて、それを文字と結びつけます。五十音の順番は辞書をひくときにも使います。

図 2 かなを覚える歌

「あいうえおはよう」(キラキラ星)

あ い う え お は よう か き く け こ ん に ち は
は ひ ふ へ ほ ん と う に ま み む め も う い ち ど
さ し す せ そ う で す か た ち つ て と ん で も な い
や い ゆ え よ ろ し く ら り る れ ろ ま ん す
な に ぬ ね の ん び り そ れ で は つ ぎ を う た い ま し ょ う
わ い う え お も し ろ い ん で ど う と う お わ り
(フランス民謡)

『日本語教育通信』第 46 号より

他にもラップを使ったり、自分たちで作曲したり、学習者が好きな歌で作ると、かなの音を楽しく覚えることができます。

【タスク3】YouTubeなどで、「あいうえおの歌」をさがしてみましょう。自分が知っているものを紹介してもかまいません。

③文字カード

かなをひとつずつ確実に覚える方法として文字カードがあります。

実際の場面では、文字がバラバラに出てきて言葉や文を作っているの、文字カードを使って、一つずつのかなの形と音を確実に覚えます。図3のようにカードの裏にローマ字が書いてあると、学習者が自分で音を確認することができます。最近ではカードと同じような方法でかなを覚えられるサイトやアプリもたくさんありますし、学習者に自分で文字カードを作らせてもよいでしょう。

図3 文字カード



『まるごと 日本のことばと文化 入門(A1) りかい』より

【タスク 4】文字カードを使った「読み」の練習を考えましょう。

④^{れんそう}連想法

文字カードと同じように、かなをひとつずつ確実に覚える方法として、連想法があります。連想法は、アソシエーション法とも言いますが、自分が知っていることばを使って、かなの形と音を覚える方法です。

たとえば、図 4 は国際交流基金の『HIRAGANA Memory Hint』というアプリ教材の例ですが、ひらがなの「え」は英語ではエクソサイズ（運動）の「え」、インドネシア語では「Ekor anjing（犬のしっぽ）」の「え」というように絵を見ながら文字の形と音を覚えます。

図 4 連想法の例（『HIRAGANA Memory Hint』）



この方法はいろいろな言語の教材がありますし、自分たちで考えて作ることもできます。

4. 「読み」の注意点

最後にかなの「読み」を教えるときの注意点を確認しましょう。

①発音

五十音表でもローマ字を使ってかなの音を示していますが、ローマ字は日本語の音を正確に表すことはできません。また、ローマ字は言語によっても読み方が違うので、注意が必要です。ローマ字はあくまでも発音の目安めやすなので、正しい発音を耳で聞いて覚えさせるようにしましょう。

【タスク 5】あなたが教えている学習者について、発音に必要な文字（かな）を挙げてみましょう。

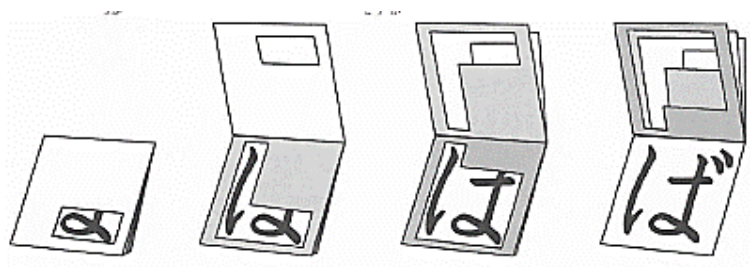
②字形

かなの字形には、形が似^にているものがたくさんあります。ひらがなの中で、カタカナの中で、ひらがなとカタカナの間に似ている字がいろいろあるので、学習者と一緒に整理しておきましょう。

【タスク 6】あなたの学習者がまちがしやすい、形が似ている文字（かな）を挙げてみましょう。

似ている字を区別するためには、細かいところに注意する必要があります。たとえば、図 5 のような文字あてカードを使うと、どこに注意すればよいかを考えながら楽しく練習することができます。文字あてカードは、スライドのアニメーションを使って作ることもできます。

図 5 文字あてカード(『文字・語彙を教える』より)



字形の注意点としては、印刷などの活字（フォント）と手書き文字の違いもあります。

さ → さ ゆ → ゆ
ふ → ふ り → り

実際の生活ではいろいろな字体を読むので、文字を読む練習では、教科書の字体だけではなく、チラシやメニューなどのレアリア（実物）を使って、いろいろな字体を読む練習をしないとよいでしょう。

③表記と発音のずれ

助詞の「は、へ、を」や、四つがなの「じ、ち、ず、づ」、そして長音、促音、拗音のような特殊なもの、さらに外来語の表記などがあります。これらのルールを一度に教えても学習者は覚えられないので、新しいことばや文が出てきたところで確認するようにしましょう。

【タスク 7】次の例は、それぞれ何に注意すればよいでしょうか。説明のポイントを考えましょう。

きを つけましょう!
Be careful!

① とけい	② どうきょう
③ おちゃ	④ ざっし

きを つけましょう! Be careful!

① コーヒー koohee	テーブル teeburu	
② ベッド beddo		
③ ジュース juusu	シャツ shatsu	シャワー shawaa
④ ソファ sofa		

『まるごと 日本のことばと文化 入門(A1) りかい』より

5. まとめ

かなの教え方は、学習者のニーズや教育現場の事情を考えて決めます。学習者が自分のペースで段階的にかなを学習する方法もあります。

かなを教えるときは、「読み」と「書き」に分けて考えます。「読み」では、かなの全体を理解しながら、ひとつずつのかなの形と音を確実に覚えることが大切です。

書きの教え方については、次のパートで取り上げます。

■ このパートの参考文献と参考サイト

- ・ 国際交流基金(2011)『文字・語彙を教える』(国際交流基金日本語教授法シリーズ 3)

ひつじ書房

- ・ 国際交流基金(2013)『まるごと 日本のことばと文化 入門 りかい』(三修社)

- ・ 国際交流基金(2003)「かなを楽しく覚えよう」『日本語教育通信』46号

https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/hint/pdf/tushin46_p16-17.pdf

- ・ 国際交流基金(2015)『HIRAGANA Memory Hint』(アプリ)

<https://minato-jf.jp/Home/JapaneseApplication>

■ タスクの答え

【タスク 1】

教え方	長所	短所
①最初にかなを全部教えてから、日本語（会話や文型）を教える。	日本語で書かれた教材をすぐ使える	学習者があきたり、学習意欲 よく が下がってしまったりする
②最初はかなを教えないで、ローマ字だけを使って日本語を教える。	すぐに日本語の学習が始められる	使える教科書が限られる。 発音にローマ字の影響 えいきょう が出やすい
③ローマ字を使って日本語を教えながら、かなも平行して少しずつ教える。	かなと日本語と一緒に学ぶことができる	両方の学習の進め方を考えなければならない。

【タスク 2】

	ひらがな	カタカナ
形	全体に丸い	全体に角張っている
使い方	カタカナで書く言葉以外すべて書ける	外国の人名・地名、外来語
その他	よく使うので覚えやすい	あまり使わないので忘れやすい

【タスク 3】（答えなし）

【タスク 4】

- ・カードのかなを 1 枚ずつ読む ・音を聞いてかなのカードを探す(かるた)
- ・カードを五十音の順番に並べる ・ひらがなとカタカナのカードでペアを作る
- ・カードでことばを作る など

【タスク 5】(答えなし)

【タスク 6】(答えなし)

【タスク 7】

①と <u>けい</u>	ひらがなの長音(「けい」と書いて「ケー」と読む)
②とう <u>きょう</u>	ひらがなの拗長音(「きょう」と書いて「キョー」と読む)
③お <u>ちゃ</u>	拗音(「ちゃ」で一つの音)
④ざ <u>っ</u> し	促音(「っ」は 1 音分の長さになる)
①コー <u>ヒ</u> ー、テ <u>ー</u> ブル	カタカナの長音(「ー」を使う)
②ベ <u>ッ</u> ド	カタカナの促音
③ジュー <u>ス</u> 、シャ <u>ッ</u> ツ、シャ <u>ワ</u> ー	カタカナの拗音(拗長音)
④ソ <u>フ</u> ァ	外来語の表記